

石川さゆりの名曲「津軽海峡冬景色」の解釈】について

2019年5月11日（土）Facebook 柳沢克央 投稿

- ◆今月に入り、「なぜ、この曲がこれほど感動的で日本人の心に残るのか」が私なりに解決できました。
- ◆「別れ」の曲であることは誰もが認めることでしょう。
- ◆『365日恋もよう』というLPレコード(アルバム)の「12月」の章として構想され、作曲されていることに注目しています。要するに「すべて」の中で「最後」に位置づけられた曲なのです。
- ◆私には「上野発の夜行列車」＝「人生」、「北」＝「あの世（実際にあるわけはありませんが、ここでは「物語」ですから…）」、「連絡船」＝「三途の川の渡し船」と解釈するのが自然に思えます。
- ◆青森駅は「夜行列車」の「終点」です。「連絡船」は異次元への乗り物です。
- ◆「ダダダダーン」というイントロはベートーヴェンの「第五交響曲」＝「運命」のオマージュ。
- ◆実際の石川さゆりの曲（2018年全曲集CDに収録されている録音）では極楽浄土で啼く鳥「迦陵頻伽（かりょうびんが）の声」のような効果音も使われています。
- ◆何度聴いてもいい曲です。若い時の歌い方も、最近の録音もどちらも素晴らしいです。
- ◆たまたまですが、今年は「津軽海峡冬景色」シングルカットから42周年です。
- ◆まとめ…「津軽海峡冬景色」は「今生の別れ」である、というおはなしでした。

#津軽海峡冬景色 #演歌の解釈 #演歌の深読み #オマージュ #365日恋もよう #石川さゆり
#阿久悠 #三木たかし
#連絡船 #竜飛岬 #青函連絡船 #夜行列車 #青森駅